

# 伊丹福音ルーテル教会 聖霊降臨後第十主日礼拝のしおり

## 2022年8月14日

### 前奏

#### 招きのことば：詩編 84 編 2-5 節

万軍の主よ、あなたのいますところは どれほど愛されていることでしょう。  
主の庭を慕って、わたしの魂は絶え入りそうです。  
命の神に向かって、わたしの身も心も叫びます。  
あなたの祭壇に、鳥は住みかを作り つばめは巣をかけて、雛を置いています。  
万軍の主、わたしの王、わたしの神よ。いかに幸いなことでしょう  
あなたの家に住むことができるなら まして、あなたを賛美することができるなら。

#### 罪の悔い改めと赦しのことば

**会衆：** 私たちは生まれつき、自分中心、わがままで、心の中に本当の愛のかけらもありません。思いとことばと行いで、まことの神を軽んじて、となりびとにも愛のない、神の御前に罪人です。神様、ほんとうにごめんなさい。

私たちは祈ります。私たちを救うため あなたがお与えくださった イエス・キリストによって、どうかあわれんでください。アーメン。（短い黙祷を持ちましょう）

**牧師：** 何でもおできになる神様は、あなたのすべての罪を赦すために、そのひとり子、イエス・キリストを十字架の上で死に渡してくださいました。ですから神様の御言葉をとりつく務めに任じられた牧師として、今、あなたがたに宣言します。父と、御子と、聖霊のお名前によって、あなたの罪は赦されました。安心して行きなさい。**アーメン。**

### 使徒信条

**われは、天地のつくり主、父なる全能の神を信ず。**

**われは、そのひとり子、われらの主、イエス・キリストを信ず。**

主は聖霊によりて宿り、おとめマリヤより生まれ、ポンテオ・ピラトのもとに苦しみを受け、十字架につけられ、死して葬られ、

陰府(よみ)にくだり、三日目によみがえり、天にのぼり、父なる全能の神の右に座したまえり。生ける人と死にたる人とを審かんがため、かしこより再びきたりたまわん。

**我は聖霊を信ず、また、聖なるキリスト教会、すなわち聖徒の交わり、罪のゆるし、からだのよみがえり、限りなきいのちを信ず。 アーメン。**

## 祈り

愛とあわれみに満ちておられる 私たちの父なる神様、心から感謝をいたします。今朝も共に礼拝にあずかり、罪の赦しをいただき、新しいいのちをいただいて 一週間を始めます。

父なる神様、どうか私たちが時を見分けることができるように導いてください。たくさんのごことが起こっています。その中で、今はどんな時なのか、何に心をとめなければいけないのか、誰のために、何をさせていただいて歩むべきなのか、教えてください。イエス様は「時満ちて」私たちのために世にくだって人となってくださいました。そして私たちのために苦しみを耐え、恥を忍び、十字架にかかって死んでくださいました。私たちにお仕えくださるお姿で、私たちの罪の赦しを差し出してくださいました。信じることなく、感謝することなく、受け止めることなく、通り過ぎる人々の多い中で、どうぞ神様、イエス様がいのちをかけて私たちに与えてくださる罪の赦しを、信仰をもって受け取り、感謝をもって歩む一週間としてください。

新型コロナ・ウィルスの感染拡大を防ぐため、緊張感を保たなければなりません。その中でも全て御手にゆだね安心して、あなたの子どもとして 生き生きと生きる日々をお与えください。この祈りを、私たちの救い主であり 主である イエス・キリストのお名前によってお祈りいたします。 **アーメン**

## 使徒書朗読：ヘブライ人への手紙 11章29節-12章2節

信仰によって、人々はまるで陸地を通るように紅海を渡りました。同じように渡ろうとしたエジプト人たちは、おぼれて死にました。信仰によって、エリコの城壁は、人々が周りを七日間回った後、崩れ落ちました。信仰によって、娼婦ラハブは、様子を探りに来た者たちを穏やかに迎え入れたために、不従順な者たちと一緒に殺されなくて済みました。これ以上、何を話そう。もしギデオン、バラク、サムソン、エフタ、ダビデ、サムエル、また預言者たちのことを語るなら、時間が足りないでしょう。信仰によって、この人たちは国々を征服し、正義を行い、約束されたものを手に入れ、獅子の口をふさぎ、燃え盛る火を消し、剣の刃を逃れ、弱かったのに強い者とされ、戦いの勇者となり、敵軍を敗走させました。女たちは、死んだ身内を生き返らせてもらいました。他の人たちは、更にまさったよみがえりに達するために、釈放を拒み、拷問にかけられました。また、他の人たちはあざけられ、鞭打たれ、鎖につながれ、投獄されるという目に遭いました。彼らは石で打ち殺され、のこぎりで引かれ、剣で切り殺され、羊の皮や山羊の皮を着て放浪し、暮らしに事欠き、苦しめられ、虐待され、荒れ野、山、岩穴、地の割れ目をさまよい歩きました。世は彼らにふさわしくなかったのです。ところで、この人たちはすべて、その信仰のゆえに神に認められながらも、約束されたものを手に入れませんでした。神は、わたしたちのために、更にまさったものを計画してくださったので、わたしたちを除いては、彼らは完全な状態に達しなかったのです。こういうわけで、わたしたちもまた、このようにおびただしい証人の群れに囲まれている以上、すべての重荷や絡みつく罪をかなぐり捨てて、自分に定められている競走を忍耐強く走り抜こうではありませんか、信仰の創始者ま

た完成者であるイエスを見つめながら。このイエスは、御自身の前にある喜びを捨て、恥をもいとわないで十字架の死を耐え忍び、神の玉座の右にお座りになったのです。

### **福音書朗読：ルカによる福音書 12章 49-56節**

「わたしが来たのは、地上に火を投ずるためである。その火が既に燃えていたらと、どんなに願っていることか。しかし、わたしには受けねばならない洗礼がある。それが終わるまで、わたしはどんなに苦しむことだろう。あなたがたは、わたしが地上に平和をもたらすために来たと思うのか。そうではない。言うておくが、むしろ分裂だ。今から後、一つの家五人いるならば、三人は二人と、二人は三人と対立して分かれるからである。父は子と、子は父と、母は娘と、娘は母と、しゅうとめは嫁と、嫁はしゅうとめと、対立して分かれる。」

イエスはまた群衆にも言われた。「あなたがたは、雲が西に出るのを見るとすぐに、『にわか雨になる』と言う。実際そのとおりになる。また、南風が吹いているのを見ると、『暑くなる』と言う。事実そうなる。偽善者よ、このように空や地の模様を見分けることは知っているのに、どうして今の時を見分けることを知らないのか。」

### **讃美歌 225番**

- 1 すべての人に 宣べ伝えよ、神のたまえる みおとずれを  
天(あめ)なる父は み子をくだし、救いの道を 開きませり
- 2 あまねくのべよ、よき知らせを、まことの幸(さち)を 求めつつも  
むなしきものに 誘われゆく 世のはらからに 宣べ伝えよ
- 3 十字架のうえに 死にたまえる み子こそ永久(とわ)の 救いなれや  
神のたまえる この知らせを、地の果てまでも 告げひろめよ **アーメン**

### **説教：「地上に火を投ずるため」**

私たちの父なる神様と御子イエス・キリストから、恵みと平安が豊かにありますように祈りつつ、御言葉をとりつぎます。

イエス様は、わたしは地上に火を投じるために来ました、と言われました。さらに、私は平和をもたらすためではなく分裂をもたらすために来ました、とも言われました。そして、まわりの状況をよく見極めて、今の時を見分けなさい、と勧めておられます。

わたしは失われた人を探し出して救うために来た、と言われる優しいイエス様と少し調子が違いますね。火と分裂を投げ込むために、地上に来られた、とはどんな意味でしょうか。また、時を見分けるとはどういうことでしょうか。

イエス様は悪いことには一切妥協しない、聖なる正しいお方であり、また私たちのためにいのしを与えるほど愛に満ちたお方です。そのイエス様が火を投じ、分裂をもたらすために来られた、とおっしゃいました。

火は、すべてを焼き尽くします。恐ろしい力があります。また、火には金属を精錬するときのように不純物を取りさって純粋にする働きもあります。鉄鉱石を燃え盛る溶鉱炉に投げ込んで、純度の高い鉄を取り出すときの炎です。

かつてイエス様の来られることを予告したバプテスマのヨハネという人が、わたしは水で悔い改めの洗礼を受けていますが、後から来られるイエス様は聖霊と火の洗礼を受けるお方です、と紹介しました（ルカ3章16節）。聖霊は聖なる、きよい神様の霊です。私たちの罪を示します。火は正しくない者を焼き尽くす裁きの炎です。イエス様が来られたのは、地上の私たちが自分中心でわがままで、神様の御前での罪びとであることを示すためです。これまであまいにしてきた、神様の御前での不真面目で、不徹底な私たちの姿を火は白日にさらし、その裁きを宣告します。

それまで民の指導者として、神殿で仕えていたサドカイ派の人々や、旧約聖書の律法を民に教えていたパリサイ派の人々も、鋭いイエス様の批判を受け、人には難しいおきてを強制するのに、自分は外面だけ装って人々の尊敬を受けてきた偽善者だということを暴露されてしまいました。イエス様は火を投じるために来られました。あなたの心にイエス様は火を投じてくださいます。もっと前に燃えていたらどんなによかったか、とイエス様は言っておられます。これまでは自分勝手な基準や、人と比べる自分なりの基準で自分は正しい、と楽観的に考えて、神様の御前での自分の罪深い姿に向き合おうとして来なかったのなら、イエス様は聖なる神様の御前で自分中心な私たちの姿を明らかにし、その死の裁きを宣告されるのです。

しかし、イエス様はそのあとですぐ、わたしには受洗しなければならぬ洗礼がある、それが終わるまでどんなに苦しむだろう、と言われました。ここで言われている洗礼は、死といのちをもたらす苦しみのことです。イエス様はどんな苦しみを耐え忍んでくださったのでしょうか。かつてイエス様がバプテスマのヨハネによって洗礼をお受けになりましたが、そのときイエス様は私たちと同じ人間として罪を担ってくださいました。そして十字架にかかって私たちのかわりに神様の正しい罰をお受けくださいました。イエス様は地上に火を投じて、私たちが神様の御前にどれほどずるがしく自分中心な罪びとであるか、その性質は治しようがない罪びとであるかを示して、その裁きは死でしかないことを示してくださいましたが、しかしイエス様ご自身がその罪の罰を代わりにお受けくださったことによって、私たちは正しく神様の御前で罪なき者と認められ、死ではなくいのちをいただくのです。そのための苦しみをイエス様は私たちのために受けつくりしてくださいました。

イエス様がこのことを弟子たちに言われたときは、まだ十字架への道を歩んでおられるところでした。その後、群衆に「今の時を賢く見分けるように」とおっしゃったとき、イエス様はこれから苦しみを受けるときが来ること、また、それによって人々の救いが成ることをよく見分けていくように、悔い改めて心の方向を神様に向け、イエス様に信頼して歩むように、とおっしゃったのです。

私たちが洗礼を受けると、どうなるのでしょうか。私たちは洗礼によってイエス様とひとつとされます。私が自分の罪のゆえに神様に死の裁きを受けるところを、イエス様が私のために十字架で死んでくださったことで私の裁きはおわったこととなります。そして、そのイエス様が神様に新しい命を与えられて、三日目に死人の中からよみがえってくださったこととひとつとされ、罪に死んだ私たちはイエス様のよみがえりの命にあずかって新しい神様の生み出してくださったいのちに生きるのです。古いものは過ぎ去ってすべてが新しくなりました。

イエス様は地上に火を投じるために来てくださったのですが、それは単に神様の御前で罪びとである私たちの姿とそれに対する神様の裁きを明らかに示すためだけではなく、最初に申し上げていたように、金属を精錬する純化のためにも用いられます。洗礼を受けてイエス様の罪の赦しと、新しい命を受けた私たちですが、この世にあってはイエス様の精錬のための火が必要です。私たちはあたらしいいのちを生き始めていますが、完成はしていないからです。私たちの心には、きよい新しい思いが動き始めていますが、しかし依然としてまだ不純な物がたくさん混じっていますね。

神様をおそれ、愛し、信頼する思いが与えられているのに、まだ神様以外のものを恐れてしまいます、神様よりも神様がお与えくださったものを愛してしまいます、神様よりももっとしっかりしていると思いたいものを信頼してしまいます。イエス様にあってはすべてをおまかせして安心していらしいのに、まだ起こっていないことをくよくよ悩んで取り越し苦労をしたり、すでに赦されているのに過去の罪や汚れのためにいつまでもとらわれていて、限りのない後悔をし続ける過ぎ越し苦労をします。権威に反発したり、自分や隣人のからだを大切にできなかったり、結婚の関係を尊ばなかったり、人の持ち物や、人の名誉を自分勝手な理由で傷つけたりします。恨みや妬み、劣等感やプライドの、恨みやそれらは純粋な信仰ではなくて、不信仰な不純物です。油断や、思い込みで、イエス様とともに地上の命にすでに死んでおり、新しいイエス様にいただくいのちに生かされているということを忘れて、自分の心地よさやこだわりに執着する不純物が、私たちの心に巣を作って残っています。

イエス様はかたくなで不信仰で不真実な私たちの姿を見せてくださり、もう一度イエス様の赦しといのちに立ち返るために、火を投じてくださり、私たちから不純なものを区別して純粋な神の国を生きるものに日々導いてくださいます。

イエス様が地上に投じてくださった火は、私たちが悔い改めに導きます。そして、イエス様ご自身が私たちのために死んでくださったこと、三日目によみがえってくださった事実に、もう一度信頼することができるように、信仰の原点に立てるように、信仰と生活を練り鍛えてください。

イエス様は2000年前に地上に来てくださって、私たち人間の間普通に住んでくださいました。多くの人々がイエス様を信じて歩んでいます。これまでも多くの先輩たちがイエス様を信じ、洗礼を受けて、神様の御救いにあずかって、この世が与えることのできない安心と幸せを得てきました。

しかし、すべての人が信じ受け入れてきたわけではありません。この世に火を投じるために来られたイエス様のメッセージに、耳を傾けない人々も大勢います。自分の姿を明らかにされたくないプライドであったり、自分の幸せを守ることで頭がいっぱいになっていたり、目に見えない、自分なりに確かめることが難しい世界のことに距離をおいたり、いろいろな理由でイエス様に明らかに反対したりする人々もいます。まだイエス様のことをきちんと聞いたことがない、という方も社会にたくさんいらっしゃいます。友達の間にも、親族や家族の間でも、イエス様のことで態度が割れてしまいます。

イエス様が「わたしは地上に平和ではなく、分裂をもたらすために来た」と言われたのはこの意味ですね。イエス様に対する態度によって対立や分裂が生じます。どうすればいいのでしょうか。

私たちはもちろんイエス様を信じていない方々と争うではありません。むしろ、そこに厳然と考えの違いがあることを心から受け入れ、違いがあるからと言ってそれが損得にならないように、人を人として尊重し、尊敬します。そして、私たちが自分の罪を悔い改めて、神様からの贈り物であるイエス様を受け入れ信頼したのは、自分の力や決意の固さではなく、イエス様のみ言葉によって、聖霊の働きによってなのですから、み言葉を聴くことができる場所に何としてもお連れして、神様のお働きによって、人々にも悔い改めと信仰の心が整えられるように祈りたいですね。イエス様は、失われた者を探し出し、救うためにも来られたからです。

「わたしが来たのは、地上に火を投ずるためである。その火が既に燃えていたらと、どんなに願っていることか。」ルカによる福音書 12章 49節

人知をはるかに超えた神様の平安が、あなたの心と思いをキリスト・イエスにあって守ってください。アーメン

### **讚美歌 514番 献金 献金感謝の祈り**

1 弱き者よ、われにすべて まかせよやと 主はのたもう

※主によりて あかなわる わが身の幸は みな主にあり

2 岩のごとく かたき心 砕くものは みちからのみ ※

3 われに何の いさおし あらん ただ主の血に きよくせらる ※

4 死の床より 起くるその日、勇み歌わん 主のみいさお ※ アーメン

### 主の祈り

天にましますわれらの父よ、願わくはみ名をあがめさせたまえ。みくにを来たせたまえ。

みこころの天になるごとく地にもなせたまえ。われらの日用の糧を今日も与えたまえ。

われらに罪をおかす者をわれらが赦すごとく、われらの罪をもゆるしたまえ。

われらを試みにあわせず、悪より救い出したまえ。

国と力と栄えとは、限りなくなんじのものなればなり。アーメン。

### 頌栄：讚美歌 543 番

主イエスの恵みよ、父の愛よ、御霊の力よ、あぁみ栄えよ **アーメン**

### 祝福の言葉

仰ぎこいねがわくは、私たちの主、イエス・キリストの恵み、父なる神の愛、聖霊の親しき  
お交わりが、御前に集う一同とともに、今日も、この一週間も、いく久しくとこしえまでも、  
豊かにありますように。 **アーメン**

### 後奏